

猛暑でのお盆参りや、地蔵盆のお参り（京都特有かもしれない）も終わり、やっと秋風の季節がやってきた。しかしながらこの頃より、台風のシーズンに入り、一難去つてまた一難というところである。

当院のお盆参りは、一日に何十件というお参りではない。御蔭で、ある程度、余裕のあるお参りが出来て、こちらからもお話をし、御門徒さんからもお話を聞く機会も得て、少しばかりの会話の時間も持てる。その会話のなかで、ある御門徒さんから「亡き人は本当に幸せだったでしようか。本当に満足だったでしようか。もつと私に出来ることがあったのではないかと、遺された者として思われる」とあります。そのお話を聞いてふと思いついたことがある。ある先生のお寺で御門徒さんが亡くなられ、あとに遣されれた若き青年（故人の息子さん）が、尽七日（四十九日）の法要の勤行と御法話が終わつた後で、住職である先生のところにまで響いて、きっと親父も慶んでいること思います。」と言われるや否や、間髪を入れず、先生曰く「あなたの慶びになつたか。あなたが慶ばんでも、亡き親父は慶んでないで。あなたの慶びが親父の慶びや」と言われたそうだ。私も慶んでいます。」「今日の読経と御法話は親父のところにまで響いて、」「今日の御門徒さんとの会話から、私事ではあるが、2018年に私の姉の夫を、2019年に私の父を、2020年に妻の母を、2021年に私の母を亡くし、その時に「義理の兄、親父、義理の母、

大切な問い合わせ大事な事柄

御門徒さんから頂いた



第53号
令和4年
(2022年)
10月・11月・
12月
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

私の母の人生は幸せだったのか、満足だったのか、もつと私はできることはなかつただろうか」と、確かに思われたことは事実である。しかし、いくら考えてもこの自分から出た、この間に応え得ることが何もない。ただ、そこからは、義兄や親の願いに背き続けた自分であることを報せられ続けることのみである。

当院でのお参りの環境（お参り先の軒数が少ないということ）が御門徒さんとの会話を持たせてくれたということはあるが、その事は同時に、時代社会の諸問題によって生み出されている寺院を取り巻く環境の厳しさのなかで、御門徒さんと僧侶との会話の重要性を改めて思い知らされる事柄となつた。

「我々（僧侶）が、御門徒さん宅にお参りに出向くということは、（葬儀・法事・月命日のお参り等を含めて）我々にとっては、日常であつても、御門徒さんにしてみれば、お参りの準備（当日また、前日に仏間の掃除の準備等）をして待つ、特別な日として迎えてくれていることを忘れてはならない」とは、ある師の御言葉である。この言葉が自然と蘇つてくると同時に、僧侶としては法話をして自己満足することだけではなく、何かを聞きたいと思っている御門徒さんからの声を聞き、共に問い合わせることの大

庭園にありましたお化け灯籠については、風化が激しく存続が難しいため、解体し庭園の石として配置することが決まりました。今回庭園を担当する右京野造園の社長より、ご説明をいただきました。

《お化け灯籠の撤去について》

岡崎別院の庭園の池のほとりには高さ三メートル程度の「お化け灯籠」が据えられており、庭の重要な景観のひとつとなっています。

今回の整備工事の一環として、灯籠の現況調査を実施したところ、やや池側に傾いており、比較的やわらかい材質の花崗岩でつくられているが故に風化が進行し、将来的に倒壊する危険性があると判断しました。庭園を利用される方の安全を最優先する為、大変残念ですが工事中の重機が使用できる今のタイミングで撤去した灯籠の部材のうち、風化の進んでいない「地輪」や「竿」は整備後の庭園にて景石として据えさせていただきます。

右京野造園 田中 孝

- 本年度の
鏡池の集い／蓮如上人を訪ねて
十一月十三日（火）
九時半～
・秋季彼岸会
・別院報恩講
・歳暮勤行
・修正会
は、整備事業に伴い
院内での内勤めとさせて頂きます。

十月十三日（木）
九時半～
味読正信偈／蓮如上人を訪ねて
十一月十五日（火）
九時半～
鏡池の集い／蓮如上人を訪ねて
十二月十三日（火）
九時半～
・秋季彼岸会
・別院報恩講
・歳暮勤行
・修正会

【列座のつぶやき】

今年は私自身別院では二度目のお盆参りでした。少しでも自分が準備した法話を伝えようと意気込んでみるものの、逆に私自身が気づかされる、教えてもらつてばかりのお盆だつたよう思います。



宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26
電話 075-771-2921
FAX 075-748-1665
<http://okazakibetsuin.com>
info@okazakibetsuin.com

来院について

現在、当院境内は工事作業や車両の出入りなどがあり、安全が確保できませんので、御参詣いだけません。

別院に御用の方は、山門入られて左の仮設の建物にお声かけいただきま

すようお願い致します。

